

正徳、利用、厚生

樞密顧問官 鎌 田 榮 吉

私の演題は『書經』の語から取つたのであるが、これから少しく正徳、利用、厚生に就いて御話したいと思ふ。

正徳、利用、厚生と云ふ。此は勿論支那傳來の語で、既に三千年の昔から、人々は利用、厚生によつて生活し、又相互の生活を向上せしめて來た。然るにその内に利用、厚生許りに終止せず、此に道徳即ち正徳を加へ、三者相調和して人生、社會の向上を期して來たのである。衣食足りて禮節を知るので、利用、厚生と云ひ、一方にのみ偏する事は不可である。三者完全に備はつて始めて、社會人生は完全に發達するのであるが、此中分けても正徳を重んずべきは云ふ迄もない。且つ三者の調和が教育、政治、宗教の力に俟つ事も今更贅言を要しない所である。

由來我國傳來の宗教には、何れも事物の一面に偏せず、事物を公平に見ると云ふ長所があつた。例へ

ば儒教、佛教の傳來當時、兩者は我國固有の思想と衝突を來し、幾分その間に混亂を招いたが、三者は間もなく調和し、よく國民精神の發達に寄與して來たのである。即ち國民は吉事の場合には日本固有の神道に寄り、凶事には佛教を求め、吉凶何れにも關係せざる事には儒教を求めてゐた。即ち神佛儒三者が完全に調和し、相寄つて國民の精神を構成してゐた所に日本宗教の長所特質が見出さるゝのである。

然るに外國に於ては、日本の宗教の如き長所は見られない。例へばヒリッピンなどは、スペインに占領せられて以來キリスト教カトリック教の勢力治下となり、現今では新教の勢力盛であるが、長年の因襲により、カトリック教僧侶が民心を支配してゐる次第である。又シヤム國に於ては、佛教の勢力極めて盛であり、一般國民も一度は僧侶となると云ふ状態である。此等は何れも一宗教に獨占せられた形であるが、その結果は國民が精神の自由を失ふと云ふ惡結果を將來するのである。是れ實に加特力教なり、佛教なり、一思想一信仰が、その國々に劃一的に行はれてゐるのである。然るに我國に於ては一思想がこの如く劃一的勢力を得ると云ふ事ではなく、諸の思想が相調和して、その間に統一されて國民に臨み、國民精神を指導して行つてゐるのである。

これに關し、かの支那で行はれた禮樂の思想には意義深長なものがあると思ふ。「禮は異なり樂は同なり」と云ふ。禮は人品に依つて差別するが、樂は共通に働くと云ふ、此處に禮樂の意義がある。即ち同

から異に進むのが文化である。同の働と異の働とは文化の作用である。従つて文化の發展には兩者を必要とする。今もし現代の思想、自由、平等について云へば、自由は各人の性によつて異なれば、平等に此等の人々を同に導くものである。然し若し自由のみに由れば放縱無政府となり、平等にのみよれば共產となる。従つて異と云ひ同と云ひ、自由と云ひ平等と云ひ、何れも兩者が統一せられ調和せらるゝ所に完全な社會が將來されるのである。

何れにせよ、社會を指導する人は凡ての思想を調和し統一する必要があるが、政治家と云ひ、宗教家と云ひ、何れも他を排する事なく、各自が他の思想を自己の内に入れ、以て思想の統一調和を圖る事が肝要である。

偶 成

林田守隆

夔屈龍伸趣味深

人生妙處在浮沈

請看橋下乘履者

起作英雄此是心